

令和2年度 事業報告書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

1. 会議の開催

(1) 総会 [議案書郵送による審議]

- ・理事会開催直後、企業会員に対し議案書を郵送し、5月29日(金)までを期限として、書面審議を行った。
- ・5月時点での企業会員数128社に対し、124社から回答(回答率96.8%)があり、令和2年度の議案書(昨年度実績と本年度事業計画)については、提案のとおり承認された。

(2) 理事会

1) 第1回理事会 令和2年4月24日(金) 15:00～ 事務・教養棟2階 会議室B 出席者10名

- ① 令和2年度 通常総会議案書(案)について
- ② 年度毎の事業経費の推移(設立時～令和2年度)について
- ③ 鈴鹿高専からの依頼事項(ランチタイムミーティング導入、Uターン就職希望者の活用、企業会員の情報共有における企業取組み発信等)について
- ④ 年間活動日程について

2) 第2回理事会 令和2年10月16日(金) 事務・教養棟2階 会議室B 出席者23名

- ① 今年度の会員動向について(令和2年5月以降)
- ② 共同研究、受託研究、技術相談の支援について
- ③ 今年度の主な事業の中間報告(令和2年9月30日現在)について
- ④ 今後の事業の実施について[企業ガイドブック2020の作成、出前講座、高企業会員の情報共有における企業取組み発信、高専卒業生の転職、Uターン就職希望者など]
- ⑤ 会員増強について(当面150社、最終300社を目指す。)
- ⑥ 次年度体制について

2. 事業の実施

(1) 会員企業との共同研究等による研究協力の推進

1) 共同研究・受託研究への支援

[支援内容：会員企業からの共同/受託研究費(間接経費10%を含めた研究費)の20%を、担当の高専教職員に寄附金として助成する。但し、1件20万円を上限とする。]

○共同研究：9件

- ・ミズノテクニクス株式会社(末次教授他5名) 3,000,000円(20万円助成)
- ・株式会社ディ・アンド・ディ(平井教授他3名) 1,200,000円(20万円助成)

・株式会社光機械製作所	3,000,000 円 (20 万円助成)
・三恵工業株式会社	1,000,000 円 (20 万円助成)
・三恵工業株式会社	1,000,000 円 (20 万円助成)
・トーカロ株式会社	2,481,700 円 (20 万円助成)
・株式会社荏原風力機械	847,000 円 (約 16.9 万円助成)
・株式会社華月	3,000,000 円 (20 万円助成)
・株式会社山本鍍金試験器	880,000 円 (17.6 万円助成)

○受託研究：1 件

・杉野工業株式会社	141,641 円 (約 2.8 万円助成)
-----------	------------------------

2) 会員企業の技術相談に関する助成

〔支援内容：同様な内容の技術相談が 1 年以内に 2 回以上に及ぶ会員企業からの相談料は、2 回目以降も無料とし、相談担当の高専教職員に寄付金として助成する。〕

○技術相談：5 社

・トーカロ株式会社 (1 回で終了)	助成	0 円
・名古屋メッキ工業株式会社 (1 回で終了)	助成	0 円
・株式会社豊電子工業 (2 回目以降支援、2 回実施)	助成	13,500 円
・パナソニック株式会社アプライアンス社 (2 回で終了)	助成	0 円
・株式会社松阪鉄工所 (1 回で終了)	助成	0 円

3) 会員企業の研究設備利用

〔優遇制度：通常使用料から 30%減額にて適用される。〕

- ・株式会社 FEED 2 件
- ・パナソニック株式会社アプライアンス社 1 件

4) 会員企業との共同研究等推進に関する助成

〔ランチタイムミーティング等により、企業会員と共同研究等における新たな研究テーマの創出ができた場合の研究推進費として支援する。〕

○企業会員との共同研究等における研究推進：1 件

- ・東海検査エンジニアリング株式会社

研究テーマ： XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX を利用した欠陥深さ測定に関する基礎調査

5) ランチミーティングによる取組み

〔共同研究等における鈴鹿高専との研究推進を目的として支援する。〕

東海検査エンジニアリング株式会社 1 件 (先方企業にて実施、一部メールのやり取り)

株式会社豊電子工業 1 件 (本校にて実施)

ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ株式会社 1 件 (本校にて実施)

(2) 産学官の人的、情報交流の促進

企業交流会 [中 止]

コロナウイルス感染症拡大における社会情勢を鑑み、本年度は中止とした。

(3) 会員企業の技術向上に関する支援

1) 企業技術者対象の講習会 [中 止]

コロナウイルス感染症拡大における社会情勢を鑑み、本年度は中止とした。

2) 会員企業見学会の実施 [中 止]

コロナウイルス感染症拡大における社会情勢を鑑み、本年度は中止とした。

3) 鈴鹿高専教員の企業訪問による『出前講座』の実施

株式会社豊電子工業と2回(11月、12月)の出前講座(Web開催)を実施した。

なお、出前講座のメニューは、継続してホームページに掲載している。

4) 講演会の開催

- ・令和元年度教育研究経費(校長裁量経費)実施報告会 [中 止]

コロナウイルス感染症拡大防止の観点から鈴鹿高専が中止として判断した。

- ・鈴鹿高専せれんでクラブ講演会

コロナウイルス感染症拡大防止の観点から鈴鹿高専との調整により Web 配信とした。

- ・鈴鹿高専、SUZUKA 産学官交流会との合同企画による講演会 [中 止]

7月9日(木)に開催された「SUZUKA 産学官交流会第1回役員会」において、鈴鹿高専サロン等における講演会の実施方針が決定されなかったこと、及びコロナウイルス感染症拡大における社会情勢を鑑み、本年度は中止とした。

5) メールによる会員企業向けの情報提供

- ・航空業界 News [航空宇宙人材育成/新規参入支援 CD 川合勝義氏からの配信]
- ・第8回 SUMS-NITS 医工連携研究会 [9月25日(金)] のご案内

(4) 人財確保の支援、会員企業 PR 等

1) 「企業ガイドブック 2020」の作成と学生への配布

- ・企業会員 119 社分を掲載し製本して、第3学年、第4学年及び専攻科1年次の学生に配布するとともに、鈴鹿高専教職員に配布して、会員企業を紹介した。(全134頁/部、528冊)
- ・本年度は合同企業説明会を開催することができなかったことから、「企業ガイドブック 2020」を第3学年にも配布した。

2) 合同業界説明会での会員企業紹介 [中 止]

コロナウイルス感染症拡大における社会情勢、及び鈴鹿高専との調整により、本年度は中止とした。

3) 高専祭での会員企業展示 [中 止]

コロナウイルス感染症拡大における社会情勢、及び鈴鹿高専側が高専祭自体を開催しないことを決定したことから、本年度は中止とした。

4) 鈴鹿市ものづくり企業交流会での活動紹介



企業ガイドブック 2020 の発行

- ・令和3年1月17日(日) 於：鈴鹿ハンター
- ・テクノプラザ事業内容の紹介、会員企業の紹介、研究に関わる協働事業の実施例の紹介など、パネル展示によるPRを行った。

5) 企業会員の情報共有における企業取組み発信

- ・企業会員間における技術的交流を促進するため、ホームページ上に各企業の業種等の情報を掲載した。(企業会員のみが閲覧可能)
- ・5月18日(月)に全会員企業等にメール通知済みである。

6) 高専卒業生の転職、Uターン就職希望者

- ・三重県労働局と幾度となく打合せを行い、鈴鹿高専テクノプラザとして法に抵触しないことを前提に方針を定めた。
- ・人材バンク(三重県内4社)へ導くことを基本として、来年度以降、支援にあたる。
- ・鈴鹿高専テクノプラザホームページに「鈴鹿高専テクノプラザ：会員企業の即戦力人材採用支援&卒業生のUターン支援」として掲載した。
- ・青峰同窓会報2020版(R2年8月発行)に「人材専門企業を利用し不安のないUターンを支援」として掲載した。

7) 高専OBによる知的シルバー人材活用

今年度は、先に記載した「会員企業への訪問による出前講座」と併せて実施できないか検討をしたが、新型コロナウイルス感染症拡大における社会情勢によりその実現には至らなかったことから、来年度に再検討を行う。

8) 銘板の増設

鈴鹿高専を支援頂く企業会員、特別会員、個人会員を本校の教職員や学生に紹介するとともに、来校者にPRし入会の勧誘を図った。



テクノプラザ企業会員等の銘板

(5) 高専の教育、国際交流の充実および学生との交流の促進

1) 高専の技術者教育 [中 止]

新型コロナウイルス感染症拡大における社会情勢を鑑み、本年度は中止とした。

2) 高専祭学科展示作品の審査と優秀作品の表彰 [中 止]

新型コロナウイルス感染症拡大における社会情勢、及び鈴鹿高専側が高専祭自体を開催しないことを決定したことから、本年度は中止とした。

3) 学生海外派遣支援 [中 止]

新型コロナウイルス感染症拡大における社会情勢を鑑み、本年度は中止とした。

(6) 企業会員、個人会員増強

- ・本年度の目標であった「会員企業を 140 社まで増やす」については、目標達成となった。(来年度の目標は 150 社とする。)
- ・事業推進コーディネータ雇用を検討し、上記に記載した来年度の目標を早期に達成するため、及び鈴鹿高専との産学連携推進を加速させるため、1 名を増員した。
- ・個人会員については、終身会費 3 万円として既に会則等を見直しており、また、青峰同窓会会報等による PR 活動も行っているが、伸び悩んでいることから、来年度以降も会員増における取組みを継続する。

(7) その他

昨年度(R1. 10. 17 開催)の理事会にて提案し、了承を得ていた「鈴鹿高専テクノプラザホームページのリニューアル」について、その作業を完了し、新ホームページへと移行した。

3. 会員企業への就職学生数について

- ・平成 25 年度：会員企業 7 社に 11 名
(機械工学科：2 名、電子情報工学科：2 名、生物応用化学科：3 名、材料工学科：4 名)
- ・平成 26 年度：会員企業 6 社に 7 名
(電気電子工学科：1 名、生物応用化学科：2 名、材料工学科：4 名)
- ・平成 27 年度：会員企業 4 社に 10 名
(機械工学科：1 名、電気電子工学科：2 名、生物応用化学科：3 名、材料工学科：3 名、電子機械工学専攻：1 名)
- ・平成 28 年度：会員企業 9 社に 17 名
(機械工学科：4 名、電気電子工学科：2 名、電子情報工学科：1 名、生物応用化学科：2 名、材料工学科：8 名)
- ・平成 29 年度：会員企業 9 社に 15 名
(機械工学科：5 名、電気電子工学科：2 名、電子情報工学科：0 名、生物応用化学科：4 名、材料工学科：4 名)
- ・平成 30 年度：会員企業 10 社に 14 名
(機械工学科：3 名、電気電子工学科：0 名、電子情報工学科：0 名、生物応用化学科：7 名、材料工学科：3 名、応用物質工学専攻：1 名)
- ・令和元年度：会員企業 16 社に 18 名
(機械工学科：0 名、電気電子工学科：2 名、電子情報工学科：1 名、生物応用化学科：5 名、材料工学科：7 名、応用物質工学専攻：3 名)
- ・令和 2 年度：会員企業 16 社に 26 名
(機械工学科：6 名、電気電子工学科：5 名、電子情報工学科：2 名、生物応用化学科：5 名、材料工学科：7 名、総合イノベーション工学専攻：1 名)

4. 会員数の推移について

	企業会員	個人会員	特別会員	退会企業
平成 25 年 設立総会(3 月)	27 社	2 名	2 団体	—
平成 26 年度 総会(5 月末)	47	4	8	8
平成 27 年度 総会(5 月末)	50	4	9	1
平成 28 年度 総会(5 月末)	58	6	10	3
平成 29 年度 総会(5 月中旬)	63	6	11	1
平成 30 年度 総会(5 月末)	94	9	12	1
令和元年度 総会(4 月末)	116	15	12	3
令和 2 年度 総会(4 月末)	128	18	13	6
令和 3 年度 総会(3 月末)	147	18	13	2